

手羽先・心臓（ニワトリ）の解剖

1 はじめに

観察ではどこを見せるかが重要です。同僚が手羽先と心臓を解剖する授業を行いました。ここでは、手羽先と心臓の解剖を行うとき、どこを観察するかについて掲載します。

2 解剖して観察するところ

(1) 手羽先(ニワトリ)の解剖

①どのけんを引っ張ると、うでがどう動くか分かるように動画を撮る。

①どのけんを引っ張るとうでがどうあがるか。

(動画)



上の筋肉を引っ張ると、腕が上がる。
下の筋肉を引っ張ると、腕が下がる。

→ 時間が足りなかったので、筋肉からけんを取り出すところまでは行かなかった。

②けんと骨格がどこでつながっているか写真に撮り、丸で囲む。

②けんと骨格がどこでつながっているか丸で囲む。(写真)



(2) 心臓(ニワトリ)の解剖

- ①左心室からつまようじを差し込んでいくと、心臓の上部からつまようじが出てくる。
→ つまようじが出たところを矢印で示し、「大動脈」と書く。



- ②右心室、左心室それぞれの部屋の大きさが分かるように、四角で囲む。
それぞれの部屋を囲む筋肉の厚さが分かるように矢印で示す。



【観察結果】(生徒のワークシートより)

- 右心室と左心室を比べると、左心室の方が大きい。筋肉の厚さは左心室の方が厚い。

- 部屋の大きさは右心室の方が左心室より小さい。筋肉の厚みは左心室の方が厚い。
- 右心室の方が小さく、左心室の方が大きかった。また、右心室周りの筋肉(壁)は薄く、少ない。それに比べて、左心室の周りの筋肉(壁)は厚く多かった。

【考察】(生徒のワークシートより)

- 左心室は大きいから筋肉が分厚いのか疑問に思った。
- なぜ、左心室の方が右心室よりも筋肉が厚いのか。
- 他の動物もこの心臓のようなつくりになっているのか疑問に思った。

3 おわりに

やはり実物を見せることが大切です。実物に触れることで、得られるものは大きい。心臓をカッターで切るとき心臓を押さえます。その弾力から心臓が筋肉の塊であり、力強さを感じます。手羽先を解剖していくと、けんにつながる筋肉の塊が一つではないことに気づきます。教科書の文章や写真では分からないものを感じ取ることができます。